セゾンマルチシリーズ　据付説明書

FDTSP　281LX～711LX

PJC012D109

本機は標準設置、高天井設置、下がり天井設置の３つの据付方法が可能です。
下がり天井設置はオプション対応ですから、詳細は個々の据付説明書を本体据付前にご覧ください。
本説明書は、室内ユニットの据付方法を記載してあります。
リモコン及び電気工事の方法は、電気配線工事説明書（室内ユニット付属）をご覧ください。
総合工事仕様と室外ユニットの据付方法は、室外ユニット付属の説明書をご覧ください。
リモコンは別売です。

適用機種	マルチシリーズ	28, 36, 45, 56	71
標準・高天井（吹出口付パネル）		TS-PSA-26W PIC-26W	TS-PSA-36W PIC-36W
下がり天井用（吹出口なしパネル）		TS-PNA-26W PICM-26W	TS-PNA-36W PICM-36W

工事完了後、これだけは再チェック願います。

チェック項目	不良だと	チェック欄
室内外のユニットの取り付けはしっかりしていますか。	落下・振動・騒音	
ガス漏れ検査は行いましたか。	冷えない	
断熱は完全に行いましたか。	水漏れ	
ドレンはスムーズに流れていますか。	水漏れ	
電源電圧は本体に表示の銘板と同じですか。	運転不能・焼損	
誤配線・誤配管はありませんか。	運転不能・焼損	
アース工事はされていますか。	漏電時危険	
電線の太さは仕様どおりですか。	運転不能・焼損	
室内外ユニットの吸込・吹出口が障害物でふさがれていませんか。	冷えない	

お願い事項
○取扱説明書を見ながら、お客様に実際に操作していただき、正しい運転のしかた（特にエアフィルタの清掃、運転操作のしかた、温度調節の方法）をご説明ください。
○長時間使用しない時は、電源スイッチを切るようにお客様にご説明ください。電源スイッチを入れたままにしておきますと、クランクケースヒータ等に通電されエアコンを使用しなくても電力を消費することになります。

①据付のまえに

○据付はこの据付説明書に従って正しく行なってください。
○工事計画にあっております か。

機種・電源仕様
確認してください
配管・配線・小物部品

付属品

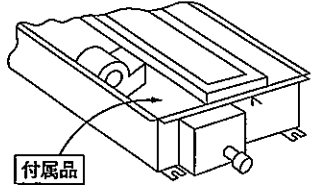
① 本体吊り込み関係

型紙	2個	（左右各1個）

② フレアナット部断熱用

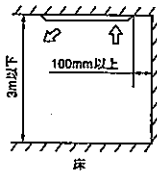
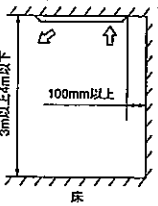
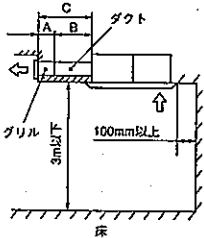
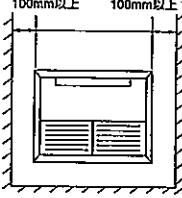
1	パイプカバー	1個	ガス管用
2	パイプカバー	1個	液管用
3	バンド	4個	パイプカバー用

③ パネル関係

丸小ネジ（M5×35）	7個	直吹パネル固定用

④ ドレン配管用

1	フレキホース	1個	
2	ホースクランプ	1個	ドレンホース用
3	パイプカバー	2個	ドレンソケット用

<お知らせ>下がり天井用ダクトと本体の接続ねじはパネルに付属しています。

付属品収納場所
○付属品は下図の位置に付属してありますので必ずフィルターを外して取り出して確認してください。

②室内ユニットの据付場所の選定

1．据付場所は下記条件に合う場所をお客様の承認を得て選んでください。
- ●冷風または温風が十分行きわたる所。
  据付高さが3ｍを越えると暖気が天井にこもりますので、サーキュレータの併設をお勧めください。
- ●室外への配管、配線のしやすい所。
- ●ドレン排水が完全にできる所。ドレン勾配のとれる所。
- ●吸込口、吹出口に風の障害のない所。火災報知器の誤動作しない所。ショートサーキットしない所。
- ●直射日光の当たらない所。
- ●周囲の露点温度が28℃以下、相対湿度80％以下の所。
  （高湿度の所に据付ける場合は本体の断熱等露付に対する配慮をしてください。本ユニットは、JIS露付条件にて試験を行い、不具合のないことを確認しておりますが、ユニット周囲が上記条件以上の高湿度雰囲気の状態で運転すると、水滴が落下する恐れがあります。そのような条件下で使用する可能性がある場合には、ユニット本体の全て及び配管、ドレン配管にさらに10mm～20mmの断熱材を取り付けてください。）

2．据付けようとする場所がユニットの重量に耐えられるかどうか検討し、危険と思われましたら板、桁等で補強して据付作業を行ってください。

単位：mm

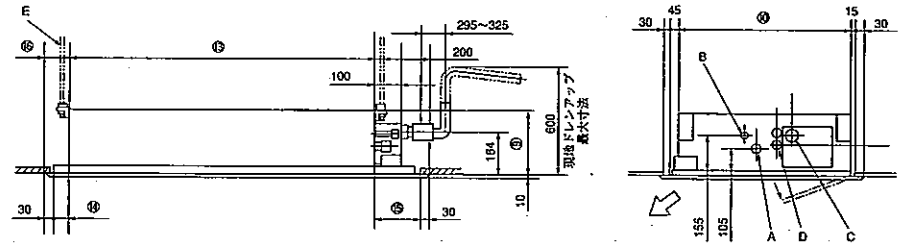
グリルとダクト ＼ 記号	A	B	C
弊社標準別売品を使用する場合	90	150～200	240～290
現地手配の場合	C=400以下		

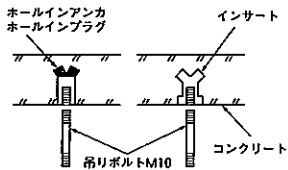
③吊り込み

天井の穴及び吊りボルト位置

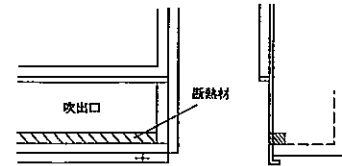
A	冷媒ガス側配管
B	冷媒液側配管
C	ドレン配管接続口
D	電源取入口
E	吊りボルト
F1, 2	OA取入口

(単位：mm)

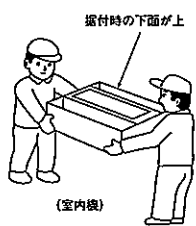
マルチ	28･36･45･56	71
①	1230	1440
②	710	
③	990	1250
④	600	
⑤	555	675
⑥	435	575
⑦	285	
⑧	315	
⑨	194	
⑩	650	
⑪	60	45
⑫	180	145
⑬	940	1200
⑭	85	70
⑮	205	170
⑯	115	100

吊りボルトの固定

図及びその他の方法によりボルトを確実に固定してください。

高天井設置改修要領

(高天井設置の場合は次の改修が必要です。)

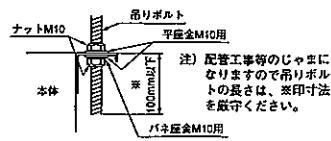
①吹出口に直吹パネルに付属の断熱材を貼り付けます。

②リモコンより機能の設定を行ってください。(50Hz、60Hz地区共)
機能設定の「室内機能」を選択し、機能番号「01　高天井設定」を変更してください。
操作方法は、リモコンの据付説明書をご覧ください。

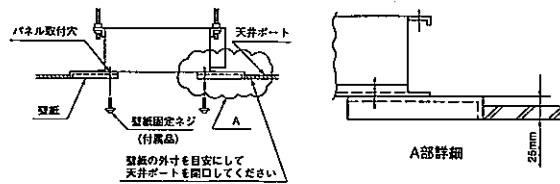
機能番号A	機能内容B	設定内容C	出荷時設定
01	高天井設定	標準	○
		高天井1	

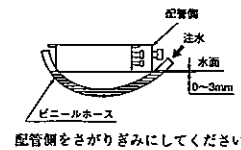
搬入

○搬入時はできるだけ据付場所の近くまで梱包のまま搬入してください。
○やむをえず解梱して搬入する場合はナイロンスリングまたは、ユニットを傷つけないよう当て板をしてロープで吊り下げてください。
○解梱後ユニットを置く場合は必ずユニット下面側を上にして置いてください。
(ユニット下面側が発泡スチロールでできており、損傷を防ぐため。)

据付

○ユニット固定要領

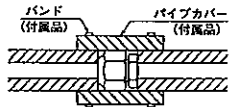
注) 配管工事等のじゃまになりますので吊りボルトの長さは、※印寸法を厳守ください。

本体を据付けたとき、本体と天井又は壁穴の寸法が出ないときは、据付金具の長穴になっていますので調整してください。

○天井又は壁穴あけ要領

〈水平度の調整〉
水準器を使用するか、下記の要領で水平度の調整を行ってください。

○本体下面と水平高さが下図になるように調整してください。

配管側をさがりぎみにしてください。

④冷媒配管

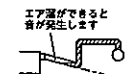
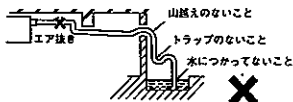
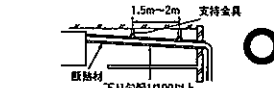
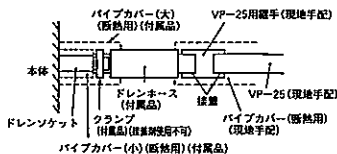
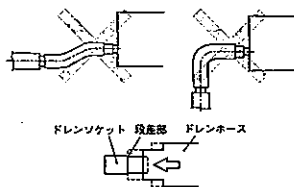
フレアナット締付トルク

- φ 6.35： 14〜 18(N･m),(1.4〜1.8kg･m)
- φ 9.52： 34〜 42(N･m),(3.4〜4.2kg･m)
- φ12.7 ： 49〜 61(N･m),(4.9〜6.1kg･m)
- φ15.88： 68〜 82(N･m),(6.8〜8.2kg･m)
- φ19.05：100〜120(N･m),(10〜12kg･m)

ガス側配管、液側配管とも断熱は完全に行ってください。

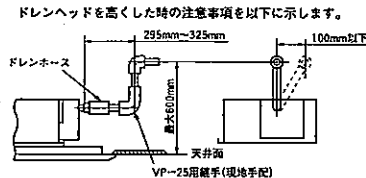
※液側配管は断熱しないと結露し水漏れします。

●ユニットの配管端部のフレアナットは、必ずスパナで2丁掛けして外してください。
（このときガスが出ることがありますが、異常ではありません。）
●フレアナット接続時は、フレア中心を合わせ、最初手回しで3～4回転ねじ込み、2丁スパナ掛けでしっかりと締め付けてください。
●配管は下記材質のものをご使用ください。なお別売配管セットを使用されると便利です。
（材質）リン脱酸銅継目無銅管（C1220T、JIS H3300）
●室内機のフレア接続部は、ガス漏れチェック後、付属の継手用断熱材をかぶせ、両端を付属のバンドでしっかりと締め付けてください。
●配管は、ねじったり・つぶしたりしないでください。
●配管内はゴミ・切粉・水分が混入しないように施工してください。

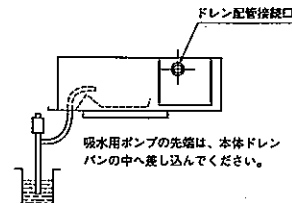
⑤ドレン配管

（ツイン機・トリプル機の場合は全てのユニットに行ってください。）

●付属のドレンホースとVP−25用継手の接着はユニット吊下げ前に実施してください。
●ドレンホースは、ユニットあるいは、ドレン配管の据付時の微少なずれを吸収するためのものです。故意に曲げたり、引っぱって使用された場合、破損し、水漏れに至る場合があります。
●ドレン管は市販の硬質塩ビパイプ一般管VP−25を使用してください。
●付属のドレンホース（軟質塩ビ端）をユニットのドレンソケットの段差部まで装着し、付属のクランプで確実に締付けてください。
〈接着剤使用不可〉
●ドレンホース(硬質塩ビ端)に、VP−25用継手(現地手配)を接着・接続し、この継手にVP−25(現地手配)を接着・接続してください。
●接着剤は付属ドレンホース内部に流れ込まないようにしてください。乾燥後、フレキ部に力が加わった場合、フレキ部が破損する恐れがあります。
●ドレン配管は下り勾配(1／50〜1／100)とし途中山越えやトラップを作らないようにしてください。
●ドレン配管を接続する場合にユニット側の配管に力を加えないように注意して行いできる限りユニット近傍で配管を固定してください。
●エア抜きは絶対に設けないでください。
●複数台のドレン配管の場合左図のように、本体ドレン出口より約100mm下に集合配管がくるようにしてください。
また集合管はVP−30以上を使用してください。
●結露が発生し、水漏れをおこす可能性がありますので、下記2箇所は確実に断熱してください。
・ドレンソケット部
排水テストを実施後、パイプカバー（小：付属品）をドレンソケット部に装着したあと、パイプカバー（大：付属品）にてパイプカバー(小)、クランプ及びドレンホースの一部を覆い、テープによりすきまのないように巻いてください。
・室内にある硬質塩ビパイプ

●ドレン配管の出口高さは、天井面より60cmまで高くさせることができますので、天井内に障害　物等がある場合にエルボ等を用いて施工してください。この場合、立ち上げるまでの距離が長いと、運転停止時におけるドレン逆流量が多くなりオーバーフローの恐れがありますので、右図の寸法内で処理願います。
●ドレン配管の出口は異臭の発生する恐れのない場所に施工してください。
●ドレン配管は、イオウ系有害ガス及び可燃性ガスの発生する下水溝に直接入れないでください。室内に有害ガス及び可燃性ガスが侵入する恐れがあります。

ドレンヘッドを高くした時の注意事項を以下に示します。

その他工事要領は通常のドレン配管工事と同一とします。

排水テスト

●試運転時に排水が確実に行われていることと、接続部からの水漏れのないことを確認してください。
●暖房期の据付の際にも必ず実施してください。
●新築の場合には天井を張る前に実施してください。

1. 本体吹出部より給水ポンプなどを使用して約1000c.c.ほど注水してください。
2. ドレン排水しているか排出口部でご確認ください。
※ドレン排水用電動機の回転音を確認しながら排水するかどうかをテストしてください。
3. 排水テスト後、ドレンプラグを外して水抜きを行ってください。
水抜き確認後はドレンプラグを元通りにはめ込んでください。
ドレン配管の断熱が本体部まで完全に行ってあるかを再確認してください。

ドレンポンプ強制運転方法

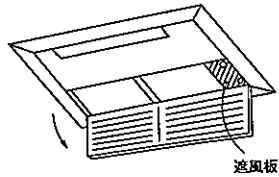
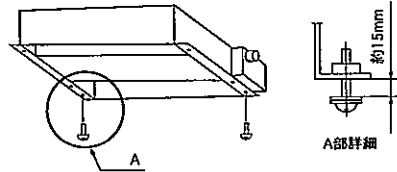
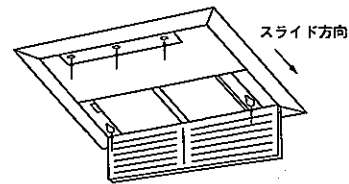
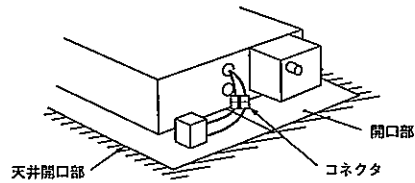
●ドレンポンプの運転がリモコン操作で可能です。
運転操作方法は、電気配線工事説明書の ⑥ドレンポンプ運転操作 をご覧ください。

（電気工事が終了していない場合は排水管つなぎ込み部に凸形継手を接続し注水口を設けて配管系統のもれ及び排水状況の確認をしてください。）

⑥パネル取付け

（パネル取付用ボルトはパネルに付属しています。）

①吸込グリルを開け、中の遮風板を外します。
（ネジ2本を外す）

遮風板

②本体にパネル取付用ネジ2本を取り付けます。

③パネルの穴部（2箇所）を本体のネジに引っかけ、10mm程スライドさせます。パネル取付用ネジ5本にてパネルを固定します。

④ルーバモータ、リミットスイッチ用コネクタを開口部より接続します。

⑤遮風板を元通り取付けてください。

⑥吸込グリルを閉めて完了です。

FDTS

電気配線工事説明書

電気配線工事は電気設備技術基準及び内線規程に従い、電力会社の認定工事店で行ってください。

① 電気配線取り出し穴位置および電気配線接続

電源配線

⚠ 警　告

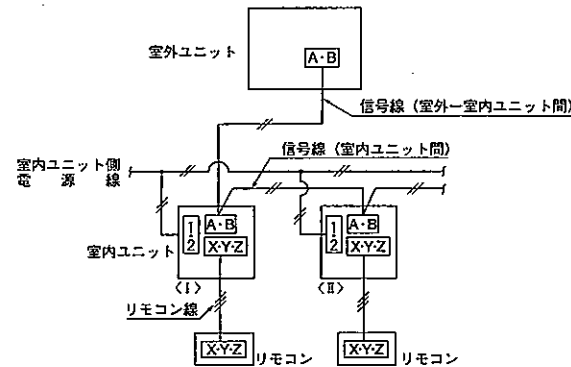
- ●下記のことを必ず守ってください。守らないときは、感電による火災、感電又は過熱、ショートによる火災の恐れがあります。
- ●電源配線の仕様・サイズの選定は、「電気設備に関する技術基準を定める通商産業省令」、「内線規程」に従ってください。また、接続部の緩みがないようにしてください。
- ●機器毎に設定された過電流及び漏電遮断器（感度電流30mA）を設置すること。
- ●専用の分岐回路を用い、他の機器と併用しないこと。併用した場合、ブレーカー落ちによる2次災害が生じる恐れがあります。

⚠ 注　意

- ●8mm²を超える太さの配線は接続不可能です。8mm²以上をご使用の場合は、専用のプルボックスを使用し、室内ユニットへ分岐するようにしてください。
- ●信号線用端子台に200Vを接続しないでください。
- ●電源は工事が完了するまで入れないでください。

○電気工事は電力会社の認定工事店で行ってください。本配線仕様は、下記に基づいて決定しています。

1）電線は銅線以外のものを使用しないでください。
2）電源は、室外ユニット・室内ユニットの夫々別電源。
3）電気ヒータ（別売品）は含んでおりません。
　注）電気ヒータを組込む場合は、電源仕様・配線仕様および配線本数が異なりますので、ご注意ください。
4）同一系統内の室内ユニット電源は、必ず全て同時ON、同時OFFになる様にしてください。
5）信号線と電源線の接続を間違えますと全ての基板が焼損してしまいますので、ご注意ください。

配線系統図〔室外・室内ユニット接続要領〕

電源仕様

(50／60Hz)

室内ユニット合計電流 (A)	配線用遮断器定格電流 (A)	漏電遮断器 定格電流 (A)	漏電遮断器 感度電流 (mA)	漏電遮断器 動作時間 (sec)
7以下	20	20	30	0.1以下
11以下				
12以下	30	30		
16以下				
19以下	40	40		
22以下				
28以下	50	50	100	

配線仕様

(50／60Hz)

室内ユニット合計電流 (A)	電源用配線太さ (mm²)	配線こう長 (m)	信号線太さ	
			室外ー室内 (mm²)	室内ー室内 (mm²)
7以下	2	21	0.75～2.0 ×2本	0.75～2.0 ×2本
11以下	3.5			
12以下	5.5	33		
16以下		24		
19以下		20		
22以下	8	27		
28以下		21		

注(1)配線こう長は、合計電流値の最大値で記載してあります。
(2)室内ユニット接続線は5.5mm²まで使用可能です。8.0mm²以上の配線をご使用なさる場合は、専用のプルボックスを使用し、室内ユニットへ分岐してください。
(3)配線こう長は、電圧降下を2％とした場合を示します。上表の配線こう長を超える場合は、内線規程に従い、配線太さを見直してください。

冷暖フリーマルチ（224H, 280H, 560H）の場合

分流コントローラの配線

●本ユニットを冷暖フリーマルチとして使用する場合は分流コントローラ（別売品）の据付説明書をご覧ください。

② アドレス設定

（1）自動アドレス設定　（2）手動アドレス設定　（3）リモコンアドレス設定

上記3項目については、室外ユニット付属の説明書をご覧ください。
なお、（3）リモコンアドレス設定については、設定可能な機種と不可能な機種がありますので、室外ユニット付属の説明書をご覧ください。

③ リモコン取付と配線及び機能

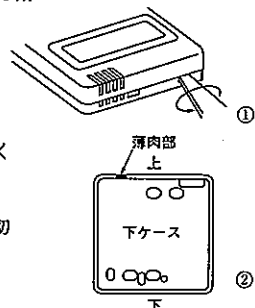
リモコン　リモコンは別売です。

リモコンの据付　お願い　次の位置は避けてください。

1）直射日光の当たる場所　2）発熱器具の近く
3）湿気の多い所・水の掛る所　4）取付面に凸凹がある所

取付要領

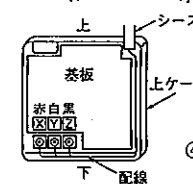
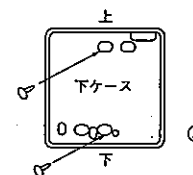
露出取付

①リモコンケースをはずしてください。
●リモコン上部の凹部にマイナスドライバ等を差し込んで軽くねじり、ケースをはずします。
②リモコンコードの取出し方向は、上方向のみ可能です。
●リモコン下ケース側の上方薄肉部をニッパー・ナイフ等で切り取った後、ヤスリ等でバリを取ってください。
③リモコン下ケースを付属の木ねじ2本で壁に取り付けます。

④リモコンコードを端子台に接続してください。室内機とリモコンの端子番号を合わせて接続してください。端子には極性があるので間違えると運転できません。

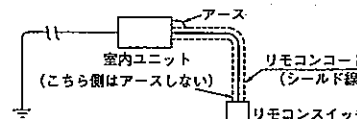
端子：Ⓧ赤線、Ⓨ白線、Ⓩ黒線

リモコンコードは、0.3mm²(推奨)～最大0.5mm²以下としてください。また、リモコンケース内を通る部分はシース部を皮むきしてください。
各配線の皮むき長さは下記の通りです。

黒：195mm
白：205mm
赤：215mm

⑤上ケースを元通りに取り付けてください。
⑥リモコンコードをコードクランプを使用して壁等に固定します。
⑦室内機の機能や用途に合わせて、機能設定をしてください。
機能の設定の項をご覧ください。

リモコンコードを延長する場合の注意 ▶ 最大総延長600m

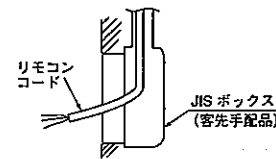
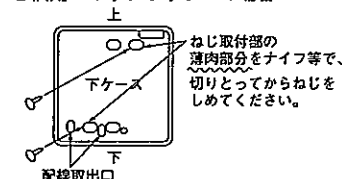
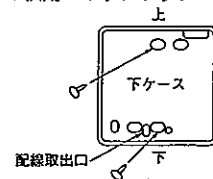
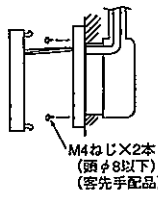
コードは必ずシールド線を使用してください。
●全形式：0.3mm²×3心〔MVVS3C(京阪電線)〕
注(1)延長距離が100mを超える場合は、下記のサイズに変更してください。但し、リモコンケース内を通る配線は最大0.5mm²以下とし、リモコン外部の近傍で配線接続により、サイズ変更してください。

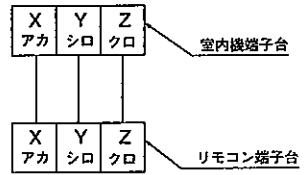
100～200m以内……0.5mm²×3心
300m以内……0.75mm²×3心
400m以内……1.25mm²×3心
600m以内……2.0mm²×3心

●シールド線は必ず片側のみをアースしてください。

埋込取付

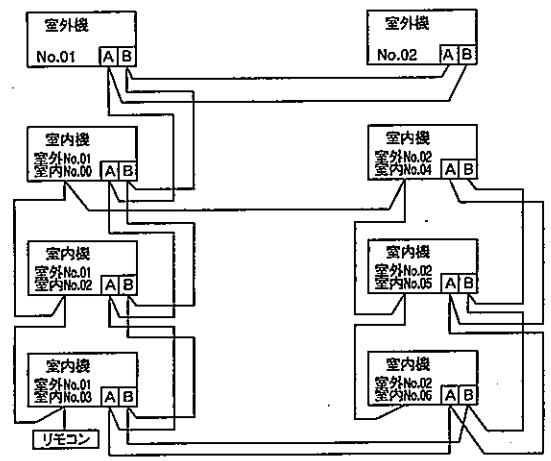
①JISボックスとリモコンコード（延長の場合はシールド線を必ず使用）をあらかじめ埋込んでおきます。
〔使用可能JISボックス〕
●JIS C 8336　1個用スイッチボックス
　　　　　　　　2個用スイッチボックス

1個用スイッチボックスの場合

2個用スイッチボックスの場合

②リモコンの上ケースを外してください。
③下ケースをM4ねじ2本（頭φ8以下）を用意してJISボックスに取付けてください。
④リモコンコードをリモコンに接続します。
[露出取付]の項をご覧ください。
⑤上ケースを元通り下ケースにはめ込み取付完了です。
⑥室内機の機能や用途に合わせて、機能設定をしてください。
[機能の設定]の項をご覧ください。

リモコンと室内の配線

●リモコン配線は極性があります。
必ず同一端子台No.同士接続してください。

リモコン複数台制御

配線要領

●グループ制御用に各室内機間に渡り配線をします。(3本)
■室内ユニットリモコン用端子台ＸＹＺに、接続してください。なお極性がありますので、同じ端子No.の所へ接続してください。
■配線は0.5mm²以上を使用してください。(配線の引廻しに耐えるもの)
■渡り線、リモートコントローラ配線の総延長は600m以内としてください。
●室内・室外No.を手動アドレス設定にてセットしてください。
■室外機の室外No.設定も必要です。忘れずに設定してください。
●下図の様に室外機が複数台の場合でもリモコン複数台制御可能です。
●１つのリモートコントローラで複数台のユニット(最大16台)をグループ制御できます。
■室内基板上のロータリースイッチSW1、SW2により、リモコン通信アドレスを重複しないように設定してください。

電源投入後、リモコンの[エアコンNo]を押すと室内機アドレスが表示されますので、[▲][▼]ボタンで接続されている室内機アドレスがリモコンに表示されることを、必ず確認してください。

機能の設定

●リモコン及び室内機の各機能は、接続される室内機により自動設定されます。
（標準的な使い方をする場合は設定の変更はいりません。）
但し、グリル昇降設定と、特別に初期設定を変更する必要がある場合は、設定を変更してください。
設定方法は、リモコンの据付説明書をご覧ください。

工場出荷時、リモコンはグリル昇降無効の設定となっていますので、ラクリーナパネルご使用の場合は、必ずグリル昇降有効の設定が必要です。
設定方法は、リモコンの据付説明書をご覧ください。

各機能の初期設定は下記の通りです。

(1) リモコン機能

機能番号Ⓐ	機能内容Ⓑ	設定内容Ⓒ	初期設定
01	グリル昇降設定	昇降無効	○
		有効50Hz地区	
		有効60Hz地区	
02	自動運転設定	自動運転有効	
		自動運転無効	○
03	温度設定	温度設定有効	○
		温度設定禁止	
04	運転切換	運転切換有効	○
		運転切換禁止	
05	運転/停止	運転/停止有効	○
		運転/停止禁止	
06	風量調整	風量調整有効	※
		風量調整禁止	
07	風向調整	風向調整有効	※
		風向調整禁止	
08	タイマー	タイマー有効	○
		タイマー禁止	
09	リモコンセンサ設定	リモコンセンサ無効	○
		リモコンセンサ有効	
10	停電補償設定	停電補償無効	○
		停電補償有効	
11	換気設定	換気接続なし	○
		換気連動	
		換気非連動	
12	温度範囲設定	表示変更有	○
		表示変更無	
13	室内ファン速調	ファン３速	※
		ファン２速	
		ファン１速	
14	冷専／ヒーポン	ヒーポン	※
		冷専	
15	外部入力設定	個別運転	○
		全台同一運転	
16	エラー表示設定	エラー表示有り	○
		エラー表示無し	
17	ルーバ制御設定	ルーバ４位置停止	○
		ルーバフリー停止	

(2) 室内機能

機能番号Ⓐ	機能内容Ⓑ	設定内容Ⓒ	初期設定
01	高天井設定	標準	○
		高天井Ⅰ	
03	フィルターサイン設定	表示しない	
		180時間後	
		600時間後	○
		1000時間後	
		1000時間→停止	
04	ルーバ制御設定	ルーバ４位置停止	○
		ルーバフリー停止	
05	外部入力切換	レベル入力	○
		パルス入力	
06	運転許可／禁止	通常運転	○
		有効	
07	暖房室温補正	通常運転	○
		室温補正＋３℃	
08	暖房ファン制御	弱風	
		停止→弱風	○
09	凍結防止温度	2.5℃	
		１℃	○
10	凍結防止制御	ファン制御有効	○
		ファン制御無効	
11	電気集塵機	ファン制御無効	○
		ファン制御有効	
12	加湿器制御	ドレンモータ非連動	○
		ドレンモータ連動	

注１.「※」印の項目の初期設定は、室内機の機種毎に異なり、下記の通りとなります。

注1.「※」印の項目の初期設定は、室内機の機種毎に異なり、下記の通りとなります。

機能番号Ⓐ	機能内容Ⓑ	設定内容Ⓒ	初期設定
06	風量調整	風量調整有効	室内ファン風量2、3速の機種
		風量調整禁止	室内ファン風量1速の機種
07	風向調整	風向調整有効	オートスイングルーバ搭載機種
		風向調整禁止	その他
13	室内ファン速調	ファン3速	室内機ファン風量3速の機種
		ファン2速	室内機ファン風量2速の機種
		ファン1速	室内機ファン風量1速の機種
14	冷専／ヒーポン	ヒーポン	ヒーポン機
		冷専	冷専機

注2.室内機に機能がない内容の場合、設定しても室内機は作動しません。
注3.(1)のリモコン機能の⑰ルーバ制御設定を変更する場合は、(2)室内機能の④ルーバ制御設定も変更してください。

④ 制御の切換

囲みが工場出荷時の設定

室内機の制御内容を下記方法にて切換可能です。

SW		
SW5-1	ON	ドレンポンプ試運転
	OFF	ドレンポンプ自動
SW5-2	ON	加湿器残留運転　有効
	OFF	加湿器残留運転　無効
SW5-3	ON	外部入力　パルス入力
	OFF	外部入力　レベル入力
SW5-4	ON	緊急停止信号　有効
	OFF	緊急停止信号　無効
SW6-1		機種容量設定
SW6-2		
SW6-3		
SW6-4		
SW9-1		ラクリーナパネル降下長設定
SW9-2		
SW9-4	ON	ファン制御　高速（高天井）
	OFF	ファン制御　標準

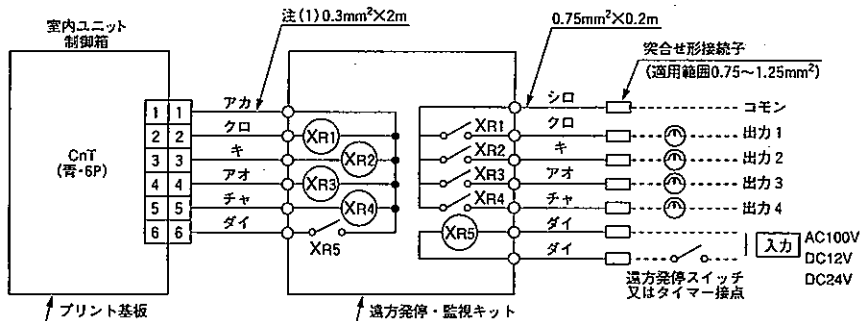
J		
J1	短絡	フィルタサイン有効
	開放	フィルタサイン無効
J2	短絡	運転制御標準
	開放	運転許可禁止
J3	短絡	暖房サーモOFF制御はJ4による
	開放	暖房サーモOFF時停止
J4	短絡	暖房サーモOFF時間欠運転
	開放	暖房サーモOFF時Lo風量運転
J8	短絡	加湿器ドレンポンプ非連動
	開放	加湿器ドレンポンプ連動
J10 J11		リモコン風量表示の切換　×：開放　○：短絡

記号	設定1	設定2	設定3
J10	○	×	○
J11	○	○	×
風量切換設定	3速(急／強／弱)	2速(急／弱)	1速(風量調整無効)

※風量切換設定の工場出荷時設定は、室内機により異なります。

注）機種によっては、上記制御内容の一部が無い機種もございます。詳細は機種別の結線銘板をご覧ください。

⑤ 室内基板CnTコネクタの機能

注(1)　2mより長くしないでください。

●XR1~4はDC12Vリレー（オムロンLY2F相当品）
●XR5は、DC12, 24V又はAC100Vリレー（オムロン製MY2F相当品）
●CnTコネクター（現地側）メーカー、形式

コネクター	モレックス	5264-06
端　子	モレックス	5263T

●機　能

出力1	エアコン運転出力（エアコンON時XR1＝ON）	
出力2	暖房出力	
出力3	サーモON出力（サーモON時XR3＝ON）	
出力4	エアコン点検出力（エアコン点検時XR4＝ON）	
入力5	出荷時	XR5 OFF⇒ON　エアコンON
		XR5 ON⇒OFF　エアコンOFF
	現地切換(SW5のNo.3をON)	XR5 OFF⇒ONのパルス信号によりON/OFF反転

●冷暖フリーマルチとして使用する場合は分流コントローラ（別売品）の据付説明書をご覧ください。
●遠方発停・監視キットを別売品で準備しておりますのでご利用ください。

⑥ ドレンポンプ運転操作

ドレンポンプ運転がリモコン操作により可能です。リモコンを次の手順で操作してください。

1.ドレンポンプ強制運転の開始
①［試運転］ボタンを3秒以上押します。
「項目◆で選択」→「［セット］で決定」→「冷房試運転▼」と、表示が切り換わります。
②「冷房試運転▼」の表示の時に、［▼］ボタンを一度押し、「ドレンポンプ運転◆」を表示させます。
③［セット］ボタンを押すと、ドレンポンプ運転を開始します。
表示：「ドレンポンプ運転」→「［セット］で停止」

2.ドレンポンプ運転の解除
④［セット］ボタン又は、［運転／停止］ボタンを押すと、ドレンポンプ強制運転を停止します。
エアコンは停止状態となります。

⑦ 試　運　転

試運転については、室外ユニット付属の説明書をご覧ください。

⑧ 故障診断方法

故障診断方法については、室外ユニット付属の説明書をご覧ください。

⑨ 工事完了後のチェック項目

□ 電源電圧は本体表示と同じですか。
□ 室外機側でアース工事はされていますか。
□ 電源線の太さは指定の配線と同じですか。
□ 電源線、信号線、リモコン線の接続位置は正しいですか。